

令和6年度小松市立那谷小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導（安井）	<p><明るいあいさつをし、よりよい関係を築く></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの『「いつでも・どこでも」気持ちのよいあいさつができていますか。』という問いに対して肯定的な回答の児童が90%以上を目指し、また教員に対してもアンケートを実施し児童との意識の差を把握する。そのために企画委員会を中心によりよいあいさつを目指す取り組みを行い、あいさつに対する意識の向上を図る。 児童アンケートの『学校は楽しいですか』という質問に対して楽しいと答える児童が95%以上を目指す。そのために生徒指導の4つに視点を意識した授業づくりを推進し、児童が達成感をもち楽しいと思える授業作りを進めていく。また委員会等で児童の主体性を生かした活動を行い、みんなが楽しいと思える学校づくりを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの『「いつでも・どこでも」気持ちのよいあいさつができていますか。』という問いに対して肯定的な回答が100%であった。教員に対するアンケートでは、「全員ができています」とは言えない」「もっとよくなる」という意見も多かった。これからも企画委員会を中心に、どんなあいさつが良いあいさつかを共有し、学校全体のあいさつが向上するよう取り組んでいく。 児童アンケートの『学校は楽しいですか』という問いに対して肯定的な回答が84%で、中学年のみ低い傾向が見られた。現在4つの視点を意識した授業づくりを推進するほか、各委員会の取り組み、各学級でも七夕音楽祭など学級を超えた交流を行っている。そういった児童が達成感を感じられる取り組みを継続して行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの『「いつでも・どこでも」気持ちのよいあいさつができていますか。』という問いに対して肯定的な回答が92%で減少した。企画委員会による見守りたのめへのインタビューなどから自分たちのあいさつについて自覚できた結果かもしれない。これからも企画委員会を中心に、学校全体のあいさつが向上するよう取り組んでいく。 児童アンケートの『学校は楽しいですか』という問いに対して肯定的な回答が96%と向上した。4つの視点を意識した授業づくりを推進、各委員会の取り組み、児童が主体となって行う行事などがこの結果につながったのではないかと。これからも児童が自己肯定感をもてる授業づくりや取り組みを継続して行っていく。
特別支援教育（吉田・湖城）	<p><UDLに基づき、組織的に取り組む></p> <ul style="list-style-type: none"> どの子にも分かるめあてを工夫し、自分で取り組めるようにする。 児童一人ひとりの実態を把握し、個に必要な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの言葉でめあてを作ったり、めあての中の大事な言葉を意識させたりして、自分で学習活動に取り組めるようにした。 児童一人ひとりの実態を把握し、視覚的な工夫として画像や動画を大きく映し出したり、具体物を使用したり、ICTの活用を適ばせたりし、支援を行ってきた。2学期も引き続き、一人ひとりが自信を持って活動できるよう支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの主体的な学習になるよう、学習の導入・進め方・ゴールを工夫してきた。具体物やICTを活用したり、子どもの言葉や思考の流れを生かした授業にしたりして取り組んできた。 少人数の良さを生かし、児童の実態を捉え、自分で意欲的に学習を進められるよう、今後も視覚的な工夫やスモールステップを意識し、支援していく。
読書教育（道上）	<p><発達段階に応じた児童の読書の量を高める></p> <ul style="list-style-type: none"> 「おすすめの本」を活用し、読書量を上げる。1年生から4年生までは学期に15冊、5年生6年生は学期に5冊読む。 各教科等の学習に活用できるように、市立図書館とも連携を図り学習環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「おすすめの本」は、1・2・3・4年生は15冊達成が21人中10人で48%、5年生、6年生は5冊達成した。各学年の100%達成するために、毎日の朝読書では、おすすめの本を必読する。また、週1、2回の読み聞かせをする。 教科単元の関連図書を借りてくることで、学習環境は整った。2学期も市立図書館とも連携を続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「おすすめの本」は各学年90%以上達成できた。担任の声かけや読み聞かせを週に2、3回にしたことで、読書量が増え達成した児童も増えた。教科書単元の関連図書を準備することで、児童自ら本を手に取り質の高い学習に取り組むことができたと思う。 「おすすめの本」の内容も学年に応じた図書もしくは、次学年の図書を提供し、より一層質の高い読書を進めていく。
保健教育（坂本）	<p><自分の身体や健康に関心を持ち、生活改善を図る></p> <ul style="list-style-type: none"> 2週間に1回生活習慣チェックを行い、歯みがき（児童）の項目の達成率を80%以上にする。 1学期に、歯と口の健康教育を全学年に行う。2学期には、講師を招いて、学校保健委員会を行い、児童に歯みがき習慣を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣チェックの歯みがきの達成率は、朝は97%、晩は100%であった。 歯と口の健康教育を全学年に実施し、歯みがき用の鏡を購入し、使用している。 毎週水曜日、保健体育委員が給食後の歯みがきチェックを行っている。今後も、児童と共に歯についての活動を続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣チェックの朝・晩の歯みがきの項目について目標の80%以上を達成できた。 保健教育や学校保健委員会、委員会活動などを通して、歯と口の健康について積極的に取り組むことができた。 個別に気になる児童には、声掛けを続けていき、家庭と協力していく必要がある。
ICT活用（安井）	<p><ICTを活用した授業を推進する></p> <ul style="list-style-type: none"> ICT指標に基づいて学年に応じた技能を身に付けさせる。 4年生以上はローマ字入力の習熟を図り、タイピング練習で1分間に4年生は50字、5年生は70字、6年生は90字以上打つことを目指す。 タブレット活用方法について、市のサポートを効果的に活用するなど校内研修を進め、教員のICT活用指導力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 小松市のICT指標を示し、学年に応じた力をつけられるようお願いしている。どの学年でもICT指標の項目の概ね3分の2程度項目について実施したとのことだった。これから全項目を実施し、スキルとして定着するよう指導していく。 1学期のタイピング検定（1分間で打てる文字数）の結果、3年平均28字、4年平均48字、5年平均49字、6年110字であった。学年によっては、目標を達成している学年もあった。今年度中の目標達成に向けて授業や帯タイムを活用しタイピング能力の向上を図っていく。 市のICTサポーターの方に来ていただき、各教室でのメニューの授業支援やデジタル教科書のアカウント設定、チームスのバージョンアップ、チームス・フォームスの基本操作などを教えていただき様々な場面で活用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学級学年の技能に応じたICTを活用した授業を行うことができた。各学年ICT指標のメールの送受信やofficeの活用など授業で扱えないもの以外のほとんどの項目で実施できたとのことだった。 2学期のタイピング検定（1分間で打てる文字数）の結果、3年平均31字（+3）、4年平均56字（+8）、5年平均52字（+3）、6年115字（+5）で、4、6年は目標としていた数値を達成することができた。これからもタイピング能力の向上のため、定期的、継続的に授業や帯タイムを活用し練習をしていく。 市のICTサポーターの方に来ていただき様々な場面で活用することができた。設定などだけではなく、小松市内の授業での活用実践の情報を共有し、授業内での活用を増やしていく。
家庭連携（前）	<p><効果的な学習活動になるよう地域や家庭と連携する></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域に関心を持ち「町のせんせい」を積極的かつ計画的に学習活動に取り入れる。 学んだことは、地域や家庭に発信する。また、教育活動についても発信し、発信方法も工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> どの学年も教育活動で「町のせんせい」を活用した。 「HPやおたより・行事等を通して教育活動の様子がわかる」に肯定的に回答した保護者は、80%である。「あまりそう思わない」と回答した保護者は20%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科を問わず教育活動で「町のせんせい」を活用したことで、地域のよさを見つめる良い機会となった。 「教育活動の様子がわかる」に肯定的に回答した保護者が100%となった。今後も、多様な方法で発信を続けていく。
環境整備（山）	<p><児童・職員が働きやすい環境づくりに努める></p> <ul style="list-style-type: none"> 物品の整理整頓に努め、活動しやすい環境を保つ。 自己存在感が得られるような教室環境に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 物品の整理整頓については、スクールサポートスタッフのきめ細かいサポートがあり、活動しやすい環境が整っている。 児童アンケートより肯定的な回答は96%であった。「そう思う」と回答した児童は60%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> スクールサポートスタッフのきめ細かいサポートで活動しやすい環境が整っているが、職員自身が任せきりになっているように感じる。職員自身も環境を整えていくよう意識してもらおう。

学校関係者評価	<p>学校の教育活動について説明した後、感想や質問、意見をいただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 南部中学校への進学 不登校にならないためにも自分の意見を言うる子に育ててほしい。 先が見えている現実があるが、大切な時期なのでしっかり育ててほしい。 スポーツクラブなどに入っている子は、他校の子とも仲良くできるが、那谷小学校の子しか知らない子供は、心配である。 今後、那谷小学校に入学するのであれば、学校以外の活動に参加し那谷小以外の世界を知る必要がある。 小さい時から本を読むことはとても大切なので、（読書教育は）よい取り組みである。 来年度、入学児童がいらないが、行事は減るのか。また、教員の数はどうなるのか心配である。 プールは10月に行うとのことだが、夏の時季の体育はどうなるのか。→ 今年のような暑さだと体育館がとても暑いので保健などできることを考えていく。 Qワードは1年生から使っていくのか。→ 使える言葉を選び、それを使って話し合いができるようにしていく。 <p>○児童数が減っていくことをとても心配していた。また、児童数が減ることで、子供同士の関わりや行事・教職員の数などについて危惧されていた。</p>
---------	---